

学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「熊本県立人吉高等学校」

住所：熊本県人吉市北泉田町350

電話：0966-22-2261

令和4年度版

I 学校の基本情報

○生徒数：683人（21学級）

○職員数：68人

○令和2年7月豪雨の状況

本校は、浸水もなく被害も少なかった。指定場所の人吉東小学校付近が浸水したことで、近隣住民は本校体育館に避難してきたため、市に避難所として開放できるよう取り次ぎ、急遽避難所として開設された。

生徒は、家の流出から床下浸水まで被害の程度は大きく異なるが、763人中85人が物的被害を受けた。また職員においても、10人が被災した。

災害当初は、学校の電話も使用できず、また携帯電話等も使用できない状況で、生徒や職員の被災状況確認に時間を要した。各避難所を回り状況を確認するといった人海戦術で、状況確認をおこなった。確認の結果、本校生徒の家庭や職員関係者に死傷者はなかった。

学校は7月14日から再開したが、雨に対して、大きな恐怖心を抱いている生徒の心のケアや制服や教科書類が流失してしまっている生徒に対する手立てなど、その後も対応に追われた。

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

防災教育については、「学校防災教育指導の手引」を活用し、自助・共助の向上を目指し、災害時の実践力につながる内容の学習をした。また、防災に関するアンケートを実施し、生徒たちは登下校を含んだ身近な災害に興味関心が高かったため、令和4年7月豪雨災害において被災した経験をもとに対応を考えさせ、避難する際の行動で率先して周囲にも働きかけるような、発災後のボランティアで高校生にできることなどを考え実践できる力を高める内容とした。また、市の防災課と連携し自助としての災害対応に対して学びを深めた。現在は防災

教育マップを作成し、年間をとおした防災教育を構築してカリキュラム・マネジメントの視点から、教科横断的な防災教育ができる工夫に取り組んでおり、今後は、防災教育を全職員、全教科の中で取り入れ実施し、発展していけるよう取り組んでいる。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

機能訓練では、本校を取り巻く災害および避難訓練で想定する地震についての確認を行った。講話・机上研修後に実際の校内防火設備の使い方や避難経路の確認等を行い、全職員で危険箇所の共有を図った。

実践的な避難訓練においては、これまで各クラスに職員が在室している授業中に行っていた発生時間を休み時間に変更して設定することで、教室だけではなく教室移動中の廊下・階段やトイレ、更衣室などあらゆる状況から避難する時間帯に設定し、突発的な発災を想定した。また地震による停電、停電復旧から放送が使えない状況下での避難や誘導が必要な状況下で通電火災を想定し避難後に発煙機による煙の発生および、火災後の避難経路の変更に対応する訓練内容を実施するとともに初期消火班による消火訓練、トイレに残された生徒の捜索班による捜索訓練及び救急班への引き渡し訓練など多彩な内容を含んだ実践的な訓練を行った。

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア 防災主任の資質能力の向上

昨年同様に各種研修等を受講。また校内で防災教育を広げるため、校内研修やミーティングを実施し資質・能力の向上に努めた。

(ア) 防災主任研修会（5月17日）

(イ) 防災職員研修講師（5月19日）

(ウ) 防災主任研修（6月28日）

- (エ) 防災教育に関する研修 (8月19日)
- (オ) 防災主任研修会 (8月25日)
- (カ) 先進地視察及び学校安全主任講習会への参加：大阪府
(11月19日から11月22日)



- (キ) 学校安全指導者研修会：宮城県
(1月25日から1月27日)



(震災遺構門脇小学校)



(震災遺構大川小学校)

- (ク) ひのくに防災塾に参加
(2月4・5・18日(予定))
- イ 校内の連携体制の構築
 - (ア) 有志防災チームの結成
 - (イ) 防災チームによる週1回のミーティング時間の設定・確保
 - (ウ) 防災チームで Google classroom を利用した研修内容の共有
- (4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善
各行事や研修事前・事後に、防災チームにおいて危機管理マニュアル及び学校安全計画の見直しのためのミーティングを行い検証・改善を行ってきた。

- (5) AEDを用いた心肺蘇生法
消防士による職員を対象としたAEDを用いた心肺蘇生法の研修及び応急手当(エピペンの使用法含む)を実施した。
生徒向けには、3学期に1学年を対象に保健体育の授業で実施を予定している。昨年度同様、簡易AEDキット及び全員に配送されている chromebook を使用し「AED サスペンスドラマゲーム 心止村湯けむり事件簿」<http://aed-project.jp> を併用することで生徒の興味・関心が高まる内容を計画している。

- (6) その他
 - ア 進路学習の人吉高校学問ガイダンス(人吉大学)で防災に関する内容を新設、今年度は熊本県立大学の佐藤哲准教授に「災害時の住居」について講義を依頼した。
 - イ 総合的な探究の時間に防災に関する探究学習の内容を新設
活動で防災・復興に関する内容を設定し、活動している。現在、中間発表を行っており、今後、成果発表会を実施予定。
 - ウ 人吉市防災課と連携
生徒アンケートで登下校時の避難について課題が見えたので防災課に「自助としての災害時の対応」について講話を依頼。
 - エ 教科横断的な学習
チーム防災ミーティングにおいて来年度から全学年で防災教育に取り組むために学年別、教科横断的な防災教育マップを作成中。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

ア 成果

避難所運営ゲーム(HUG)を使用し避難所運営の卓上訓練を実施することで避難所運営について学び、さらに体育館で運営・避難者・高校生ボランティアの役に分かれてロールプレイすることで避難所設置の際に高校生にできることを考察した。各立場から求めることなどを話し合い実際に取り組むことで、対応力を高める防災教育になった。

事前学習において本校を取り巻く

想定される災害に関する防災教育を行うことで、地域の防災に関する知識・理解を深め、防災に関する興味関心を高めた。



(避難所運営ゲーム (HUG) の様子)



(避難所運営ロールプレイの様子)

イ 課題

今後の課題としては、今回は単独クラスの協力のもとに限定した職員での防災教育を試行してきた。今後はカリキュラム・マネジメントの視点から教科横断的かつ全学年・全職員が防災教育に取り組めるよう内容を検討し、年間計画をしていく必要がある。そのため、現在、防災チームミーティングの中で防災教育マップを作成し、全職員で取り組む準備を始めている。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

ア 成果

機能訓練では、校内の防火設備・危険箇所・避難経路の確認を校内・校舎内マップを使い卓上でイメージした後に実際に校内を巡回し、チェックすることで、校内の危険箇所、避難経路のイメージ災害時の行動について共通理解を深めた。また、各役割について確認することができた。

地震からの通電火災避難訓練では、倒壊などを想定した危険通行区域、通

行不可を疑似的に示し、火災についても実際に発煙装置を使用することで、実践的な訓練を行った。休み時間に訓練を開始することで、臨機応変に退避行動・避難行動を行う活動ができた。

避難訓練後に実施したアンケートでは、生徒の避難訓練に対する興味・関心の高さも伺え、生徒から様々な避難訓練のアイデアも提示された。



(職員機能訓練)



(実践的な避難訓練)

イ 課題

今回は、発生日時や場所等を事前に示した。災害は発生が予測できないため、今後はブラインド型に移行することで更に実践的な避難訓練が必要と考える。また生徒主導で自ら考え行動する内容や、避難後の引き渡し訓練等、避難して終わりではなくその後の行動についての訓練を考えていく必要がある。

避難訓練後の生徒アンケートからも避難訓練のブラインド化をはじめ、様々な状況を想定した訓練内容を希望している。生徒自身が避難訓練に対して多く工夫を凝らしたアイデアを提示してくれた内容をもとに、今後の避難訓練計画に生かしたい。

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア 成果

各種の研修に参加し、防災の意義や過去の事例から対策の重要性などを学ぶことができた。また、他校の状況や他県の取り組みを知る事ができ、職員研修や避難訓練に活用することができ

た。現在は防災チームミーティング内で事後に共有した。

最後に参加した宮城県石巻で実施された学校安全指導者研修は、防災教育の大切さを心に刻むことができた。

イ 課題

防災チームでの共有で終わり、職員全体の共有が十分ではない。今後は、有志での防災チームではなく、各学年に担当を置くなどして、防災体制を高めていきたい。また、一部職員での防災教育担当ではなく、全職員で担当をローテーションすることで防災教育に関する共通理解等が深まると考える。

宮城県石巻での学校安全指導者研修においては自らの防災意識の未熟さを痛感した。早い段階でこの研修を受講することで日頃の防災教育の重要性や防災教育に携わる意識が変化すると考える。

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

ア 成果

研修・訓練後に防災チームで振り返りを行い防災マニュアル・各種実施要項・研修の見直しを行った。これまでの内容で無駄な箇所、矛盾している箇所が多数見つかリマニュアルの改善に繋げることができた。

イ 課題

現在、新・旧教育課程が混在しているため、今後は新教育課程の内容に合わせた学校安全計画の見直しが必要になる。

危機管理マニュアルについてはページ数や項目が多く必要なときにすぐ確認できない。災害時に必要な項目を確認することができるようインデックスを工夫したり、簡易型のマニュアルを作成することで発災時に確認できるようにしたい。またスマートフォンなどでも確認でき、不在職員の役割も代役でできるようチャートを工夫することで実際に使用できるマニュアルに変え全職員に周知徹底できる環境を構築する必要がある。

(5) AEDを用いた心肺蘇生法

ア 成果

昨年度課題として残っていた職員を対象とした心肺蘇生法・AEDの研修を実施した。また、配付された訓練キットを使用し1学年の保健体育の授業で少人数のグループでの訓練を実施できた。また、ゲーム性のある教材を平行して使用することで生徒の興味関心も高まった。

イ 課題

研修時期をできるだけ年度初めに行うことで、異動してきた職員や新入生が実際にAEDを必要とする場面に直面したときに対応できるようにしたい。

年に1度の研修ではなく、避難訓練等でAEDの使用を必要とする場面などを想定して、実践的な避難訓練と結びつけた心肺蘇生法・AED訓練も計画することでより深い効果が得られると思われる。

運動部活動生・マネージャー・顧問など緊急的な場面に遭遇する可能性が高い関係者に対しては定期的に練習を繰り返す機会を設けることも計画し、緊急時に実施することができる技術や知識の習得を考えていきたい。

(6) その他

ア 成果

現在、今後の防災教育を実施するうえで防災教育マップ作成を始めた。作成する中で教科を横断して取り組むことができる内容などもあがってきており、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れやすくなった。取り扱う内容テーマについても1年生で自助(本校・自分の居住区、通学路を中心とした、災害と対応について)、2年生で共助(災害時に高校生にできることについて考える)、3年生で公助及び地域外の災害(地域外・世界で発生している様々な災害や対応について)について学びを段階的にすることで学びを深めていく。

イ 課題

各教科の中での防災に触れた内容について全職員の共通理解と協力が必要である。また、学年で同じ内容を取り上げるための時間の確保について、難しい面もある。